

令和元年度 篠原土地区画整理事業に伴う発掘調査

若宮ノ東遺跡

現地説明会資料



記者発表：令和元年 11 月 15 日（金） 11 時～12 時

現地説明会：令和元年 11 月 17 日（日） 10 時～12 時

1. 遺跡の概要と既往の調査

若宮ノ東遺跡は南国市篠原に所在する弥生時代から江戸時代にかけての複合遺跡です。当遺跡では南国市教育委員会が平成 29 年度より篠原土地区画整理事業に伴う本発掘調査を、高知県埋蔵文化財センターが平成 28 年度より都市計画道路高知南国線建設事業に伴う本発掘調査を実施しており、弥生時代後期～古墳時代初頭と、古代（飛鳥～平安時代）の 2 つの時期を中心に繁栄していたことが分かってきました。弥生時代後期～古墳時代初頭には竪穴建物や掘立柱建物、井戸などからなる集落が拡がり、古代には大型建物や総柱建物群など官衙（役所）の関連施設が置かれていた可能性が指摘されています。

2. 今回の調査成果

今年度の調査は区画整理事業地の西部を対象としており、ここでは特に重要な遺構や遺物が見つかったⅡ-C 区の成果について紹介します。

①古代の官人が着用した腰帯の飾りである巡方^{じゅんぽう}が出土しました（写真 3・4）。

巡方はピットの上面で見つかりました。巡方の形状は表面が 30 mm × 27 mm、裏面が 34 mm × 31 mm、高さが 7 mm の四角錐台形です。表面と側面を丁寧に研磨し、裏面の四辺を面取りしているのに対し、裏面には石挽き鋸によるとみられる切断痕が残ります。

濃緑色の石を素材としており、古代の官人の装束を定めた衣服令や、遺跡出土の資料の研究によれば、石製の巡方は金属製に続いて 8 世紀後葉頃から用いられ始めたようです。石材の種類は現時点では不明ですが、滑石^{かつせき}や珪華^{けいか}などが候補として考えられます。また、石製巡方は帯への装着方法によって、「鉾留め用の、表面から裏面まで貫通した孔をもつもの」と、「金属線結束用の、表面まで貫通しない潜り孔をもつもの」の 2 種類があり（図 3）、四隅に貫通孔^{うが}が穿たれている本資料は前者に属します。金属製巡方の装着方法^{とう}を踏襲^{しゅう}した古いタイプと考えられている前者は、全国的にも平城宮・長岡京・広島市権地古墳^{ごんち}

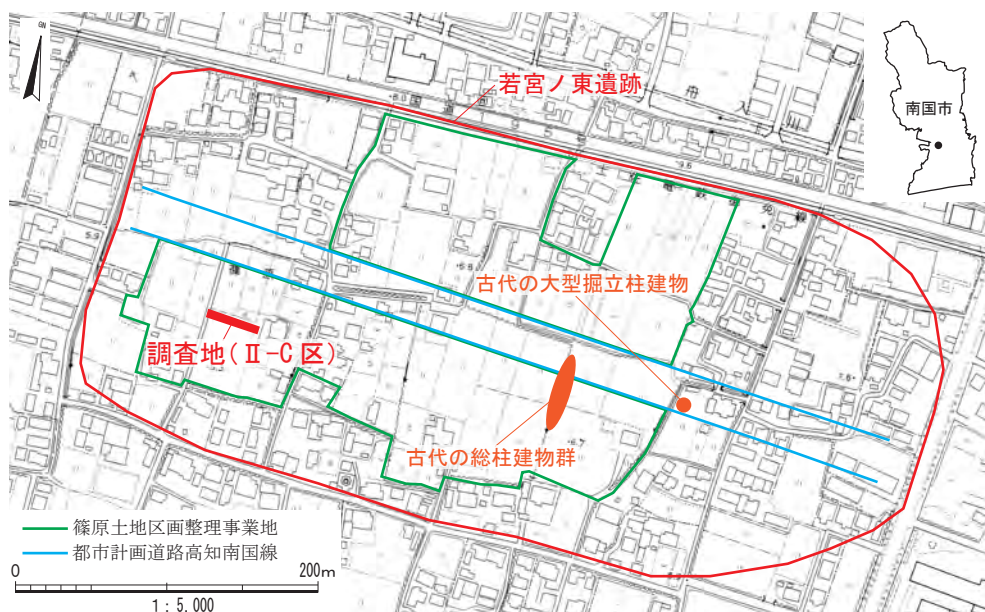


図1 調査地位置図

などごく僅かな出土例が知られているのみで、香南市^{じゅうまん}十万遺跡・四万十市^{ぐ どうなかやま}具同中山遺跡群など県内の遺跡で出土している完成品の石製巡方^{うかが}3点もすべて後者に属するものです^(註)。

一方、巡方が出土した背景に目を向けると、帯の飾りや留め具は官人あるいは官人の勤める役所が近隣に存在したことを示す特徴的な遺物と考えられています。当遺跡で見つかった大型掘立柱建物と規格性をもつ総柱建物群などの遺構は、古代条里制^{じょうり}に沿った軸方位で配置されており、官衙関連施設である可能性が指摘されていますが、今回の巡方の出土は遺跡の性格をめぐるそうした説を遺物の面からも支援する発見であるといえます。

②古代の素掘りの井戸^{すぼ}が見つかりました（写真2）。

井戸は直径3.3m前後の不整な円形で、深さは1.7mあります。土師器・須恵器をはじめ、緑釉・灰釉陶器、平瓦など10～12世紀頃の遺物が多く出土しました。一方で、遺構の数は多くなかったことから、当該時期の遺構分布の中心は地形的により標高が高く、大型建物や総柱建物群が見つかった、遺跡の中央から東北部にあると考えられます。

③弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物が見つかりました（写真1）。

竪穴建物は一辺が3.6m程度の隅丸方形で、深さは10cm程度です。既に見つかっている弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物の中では最も西に位置していることから、当該時期の集落の西限がより広がることが明らかになりました。

3. まとめ

今回の調査では古代における当遺跡の性格や遺構分布、弥生～古墳時代における集落の拡がりなどを検討する上で新たな知見が得られました。中でも、古代の官人が腰帯に装着した石製巡方^{うかが}の発見は、当遺跡と官衙とのつながりを遺物の面からも窺^{うかが}わせる重要な成果であるといえます。また、鉾留めタイプは全国的にも類例が稀少で、県内では初の出土となることから、製作技法や石材などを比較分析し、金属線結束タイプへ変化していく過程を解明する上でも貴重な資料であると考えられます。

註）巡方については田中広明氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）より、その石材については小倉徹也氏（大阪市教育委員会文化財保護課）・吉倉紳一氏（放送大学高知学習センター）より御教示を賜りました。

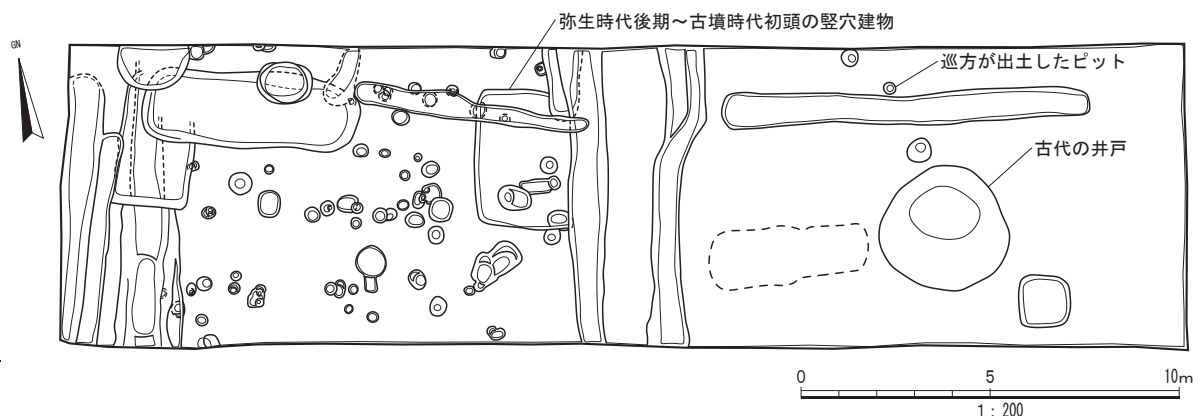


図2 II-C区遺構平面図



写真1 弥生～古墳時代の竪穴建物検出状況



写真2 古代の井戸

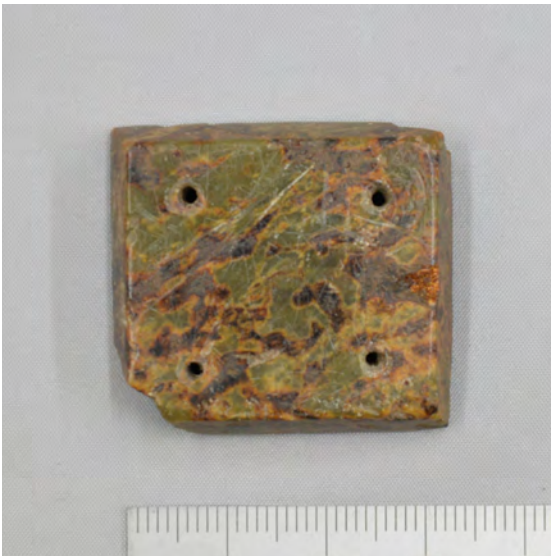


写真4 出土した巡方の表面（上）と裏面（下）



写真3 ピット上面の巡方出土状況

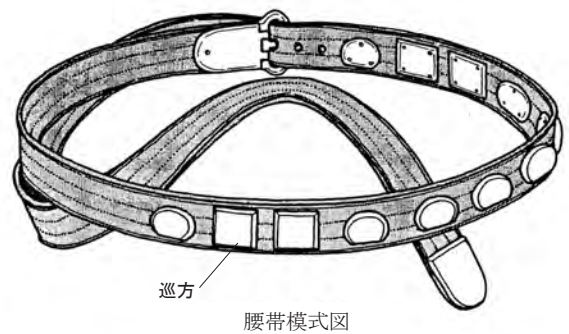
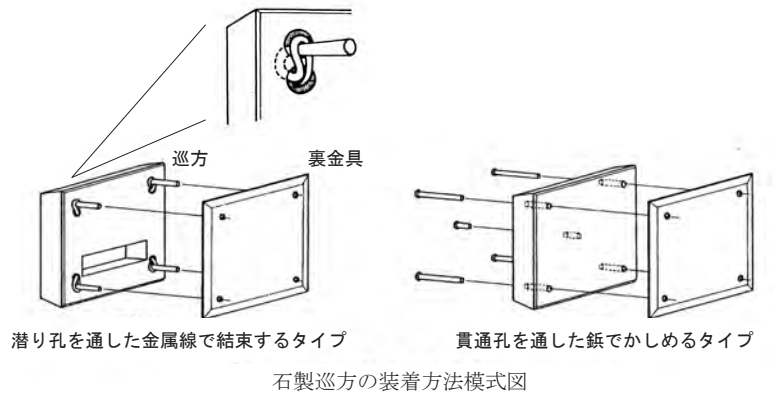


図3 巡方の装着状況模式図（木村泰彦 2002 を一部改変）